

重要日誌

1998年

5月21日▲スハルト大統領、辞任を発表。ハビビ副大統領が大統領に昇格。

25日▲政府、モフタル・パクパハン、スリ・ビントン・パムンカスら政治犯を釈放。

6月5日▲政府、出版許認可制度を廃止し、登録制にする。記者協会の設立を自由化。

▲政府、「結社の自由及び団結権の保護に関する条約」を批准。労組結成自由化。

10日▲アストラ社、自動車の生産停止。

7月9日▲ゴルカル、臨時全国大会を開催し、政党化を決定。新党首にアクバル・タンジュンを選出。

23日▲民族覚醒党 (PKB) 結成。

29日▲政府、IMFに経済・金融政策に関する覚書を提出。

8月3日▲債務再建庁 (INDRA) 発足。

23日▲アミン・ライス、国民信託党 (PAN) を結成し、党首に就任。

9月2日▲政府、大豆・砂糖・小麦粉に対する補助金制度と輸入関税を廃止。8日には食料油に対する補助金を廃止。

9日▲民間企業の債務処理を支援する「ジャカルタ・イニシアチブ」発足。

11日▲政府、銀行再建のための公的資本注入プログラム導入。

29日▲中銀、ルピア安定化に伴い、中銀証書 (SBI) 金利引き下げ。

10月8日▲民主党メガワティ派、バリ島で党大会を開催。闘争民主党 (PDI-P) 結成を決定、メガワティを党首に選出。

11月10日▲国民協議会 (MPR) 特別会議開催。

▲ワヒド、メガワティ、アミン・ライス、ハメ

ンクブウォノ10世ら民主化指導者が会談、「チガングジュール宣言」発表。

29日▲開発統一党 (PPP)、党大会を開催し、イスラム政党への復帰を決定。ハムザ・ハズを新党首に選出。

12月9日▲自己資本比率による銀行分類が発表される。

1999年

1月5日▲1999年度予算案発表。前年比17.3%減の緊縮予算。

28日▲国会、政治関連三法改正案を可決。

30日▲政府、資本注入銀行12銀行を決定。

2月18日▲総資産500億ルピア以上の企業に財務諸表の提出を義務付け。

3月4日▲11人チームによる政党審査が終了し、48政党が総選挙参加を認可される。

5日▲国会で独占禁止法が成立。

10日▲総選挙委員会 (KPU) が発足。

13日▲政府、9銀行の資本注入プログラムへの参加を許可、7銀行を国有化、38銀行を閉鎖する決定を発表。

31日▲国会、消費者保護法を可決。

4月1日▲警察軍が国軍機構から分離される。

16日▲中央銀行法、国会で可決される。

21日▲国会、地方行政法を可決。23日には、中央・地方財政均衡法が成立。

5月14日▲政府、IMFに経済・金融政策に関する覚書提出。経済成長目標を上方修正。

19日▲選挙運動開始。

28日▲政府、23銀行への資本注入のため、103兆ルピアの国債を発行。

6月1日▲アストラ社、外国債権団と債務リスクの合意に達する。

▲銀行再建庁 (IBRA)、国営銀行大口債務者

200件を公表。

7日▲総選挙投票日。

8日▲外資による持ち株会社設立解禁。

9日▲IBRA、国営銀行大口債務者追加公表。

17日▲国内選挙監視NGOのUnfrel、総選挙は公正だったとする声明を発表。

24日▲政府、新自動車政策発表。

26日▲ワヒド・ナフダトゥール・ウラマ (NU) 議長、アミン・ライスと会談し、第3の候補者が必要との認識で一致。

7月8日▲ワヒド、ハビビ大統領と会談し、チガングジュール4との会合を提案。

▲マルズキ・ダルスマン・ゴルカル副党首、同党のハビビ大統領候補指名見直しを要求。

16日▲ワヒド、NUは女性大統領を受け入れると声明、メガワティ支持を確認。

20日▲スハルト前大統領、脳梗塞でプルタミナ病院に入院。

▲アミン・ライス、ワヒドと会談、ワヒドの大統領就任案を提示。

22日▲イスムジョコ検事総長代理、スハルト資産調査の中断を発表。

▲ゴルカル党、ハビビ再選に向けてサクセス・チームを結成。

▲政府、IMFに経済・金融政策に関する覚書を提出。

24日▲イスラム系4政党が「中道軸」結成に合意。

27日▲インドネシア援助国会議 (CGI) 開催。58.6億ドルの援助承認。

29日▲メガワティ、総選挙勝利宣言をするとともに、政策綱領を発表。

▲国家警察、ガリブ前検事総長に対する汚職調査を証拠不十分のため打ち切ると発表。

8月1日▲バリ銀行疑惑が明るみに出る。

2日▲マンディリ銀行、営業開始。

3日▲ハビビ大統領、選挙結果の有効性を宣言。

▲ワヒド、スハルト資産追及捜査終了とスハルト資産の国家返済を提案。

4日▲アチェ特別州で、住民投票実施と国軍撤退を求めるゼネストが実施される。

7日▲ワヒド、「中道軸」の大統領候補指名受諾を声明。

▲フェイサル・タンジュン調整相ら関係7人が東ティモールを訪問。

14日▲スハルト前大統領、腸内出血で再入院。

16日▲IMF、政府にバリ銀行疑惑の徹底調査を要求。

▲マトリPKB党首、メガワティを同党大統領候補にすることを正式に表明。

18日▲ゴルカル党12の地方支部が、マルズキ・ダルスマンを弾劾する声明文を発表。

28日▲ウィラント国軍司令官ら関係7人がアチェ特別州を訪問。

30日▲東ティモールで、「広範な自治」受け入れの賛否を問う住民投票を国連 (UNAMET) の管理下で実施。

9月1日▲選挙委員会、国会の議席配分を発表。

▲インドネシア輸出銀行 (BEI)、営業開始。

4日▲東ティモール住民投票の結果が予定を早めて発表され、自治案拒否が受け入れを上回る。

▲会計検査院にバリ銀行監査報告書が提出される。

5日▲東ティモール州ディリで大規模な併合派民兵による襲撃があり、25人が死亡。

7日▲東ティモールに軍事非常事態が発動される。ペロ司教は東ティモールからオーストラリアに脱出。一方、独立運動指導者のシャナナ・グスマンはジャカルタの刑務所から釈放され、英国大

使館へ亡命。

12日▲ハビビ大統領、東ティモールへの国際部隊の受け入れを表明。

16日▲国軍、東ティモールからの部隊の撤退を開始。

20日▲東ティモール国際軍 (Interfet) の本格的な展開が始まる。

22日▲アチェ特別州に広範な自治権を付与する法律が国会を通過。

23日▲国家治安法が国会で可決成立。諸都市で大規模な反対デモが発生。

26日▲「中道軸」、ワヒドを大統領候補に指名することを発表。

10月1日▲国民協議会 (MPR) 開会。

3日▲アミン・ライスPAN党首、マトリPKB党首を敗りMPR議長に選ばれる。

6日▲アクバル・タンジュン・ゴルカル党党首、国会議長に選ばれる。

7日▲バリ銀行疑惑に関し、蔵相、国営企業改革担当国務相、中銀総裁の3人が事情聴取を受ける。

12日▲フェイサル・タンジュン内相代行、西イ

リアン・ジャヤ、中イリアン・ジャヤ、北マルクの新設各州の知事を任命。

13日▲マンディリ銀行への資本注入のため、103兆ルピアの国債を発行。

14日▲ハビビ大統領、MPRで責務総括演説を行う。

18日▲ウィラント国軍司令官、ハビビ大統領の副大統領候補指名を拒否すると声明。

19日▲MPR、ハビビの責務総括演説への投票を行い、否認が承認を上回る。

▲MPR、国策大綱 (GBHN) を可決。また、1978年MPR決定 (東ティモール統合決定) の放棄を全会一致で承認。憲法改正案も可決。

20日▲MPRで大統領選が行われ、ワヒドがメガワティを敗って新大統領に就任。

21日▲MPRで副大統領選が行われ、メガワティがハムザ・ハズPPP党首を敗って新副大統領に就任。

26日▲メガワティ副大統領から、新内閣名簿が発表される。

29日▲「国民統一内閣」が発足。

(作成：武田、川村)